

# くりまっこ

元気いっぱい 笑顔あふれる 栗真の子



## 3学期が始まりました！

いつもより少し長い冬休みが終わりました。終業式前後は、いつもの冬らしい寒さの日が続きましたが、それ以降は、穏やかな日が多く、春を思わせるような温かさを感じる日もありました。年末から年始にかけて、どこかへお出かけしたご家庭もあろうかと思えます。あるいはまた、家族でのんびりと過ごす時間が多かったご家庭もあろうかと思えます。いずれにしても、この冬休みの間に、ご家族の温かさをたっぷり吸収して蓄えた力を、これから始まる3学期の様々な取組への活力として、十分に発揮してくださいね。

さて、3学期は、1年間のまとめの時期です。今まで学習してきたことが確実に身につけているかを復習し、来年度に向けた基盤を固めていく必要があります。また、生活・行動面でも、この1年間の成長を振り返り、何ができるようになったか、何が苦手なままなのかを自分自身でしっかりと受け止める必要があります。3学期は、そんな大切な時期です。学年最後の学期を充実させていくためにも、「このことだけは、絶対がんばるぞ！」「このことだけは、今のうちにできるようになるぞ！」など、目標を持って取り組みましょう。その際には、目標に向かって、自分自身が楽しみながら取り組めるように工夫しましょう。

これからも寒い日が続きます。体調管理等に気をつけていただき、少しでも早く生活リズムが戻るようお力添えをお願いいたします。3学期も、よろしく願いいたします。

## ☆☆☆ PTAからの連絡です ☆☆☆

1月25日（木）に実施する「令和6年度本部役員及び学級委員選出」に係る出欠届及び立候補届の提出締切日が、1月12日（金）となっています。PTA役員立候補届については、立候補する方だけの提出ですが、「出欠届」については、全員が提出する必要があります。

当日の選挙に出席できる方は、「出席します」に○をし、必要事項を書き記した上で提出締切日までに提出をお願いします。また、当日の選挙に出席できない方については、「欠席します」に○をし、必要事項を書き記すとともに、必ず「委任状」の欄にも必要事項をご記入願います。

毎年、締切日までに「出欠届」を提出しなかったり、「出欠届」用紙を紛失してしまったりする方が見えます。「出欠届」は、必ず全員に提出していただきますので、よろしくお願いします。なお、「委任状」を出された方、「出欠届」が未提出の方については、代理による選出となりますので、予めご了承ください。

詳細については、12月22日に配布された「選出のお知らせ」をご覧ください。

## ◇◇◇ 創立150周年に向けて ~その1~ ◇◇◇

栗真小学校は、今年の5月に創立150周年を迎えます。その記念すべき日を迎える前に、栗真の歴史や栗真小学校の歴史を簡単に振り返っていきます。

栗真小学校区は、北から小川地区、中山地区、町屋地区の3つの地区によって成り立っています。この3つの地区は、一身田地区のように、お寺を中心に発展した地域ではなく、伊勢街道に沿って発展した地域です。この伊勢街道は、四日市市日永の追分で東海道から分かれ、伊勢へと通じるルートです。近世にはほぼ固定され、江戸幕府によって街道へと整備されていきました。平安時代以前は、一般の人は参拝できなかった伊勢神宮でしたが、江戸時代になると、一般の人たちも伊勢神宮を参拝するようになりました。伊勢を目指し、この伊勢街道を通った全国の多くの人たちによって、この3つの地域も賑わい、発展してきたのです。しかし、この時代には、栗真という地名は、まだありませんでした。

現在の津市の多くは、江戸時代には、伊勢の国の津藩の領地でしたが、紀伊の国の和歌山藩の領地であった地域も多くありました。小川村もその一つでした。中山村と町屋村は、和歌山藩と津藩との相給地（複数の領主によって支配されていた土地）でした。明治4年になると藩の制度が廃止され、3つの村は安濃津県の管轄となり、明治5年には三重県と名称が改められました。明治12年になると、郡区町村編制法の三重県での施行により、行政区画としての奄芸（あんぎ）郡が発足し、3つの村を含めた多くの村がそこに属することになりました。さらに、明治22年になると、町村制の施行により、小川村、中山村、町屋村の区域を合わせて、栗真村と称することになりました。

栗真村が誕生したのは明治22年でしたが、その5年前の明治17年には、栗真小学校の前身である中山学校の名称が、栗真学校と既に呼ばれるようになっていました。では、この「栗真」という名称は、何を基に名付けられたのか、調べてみたことを掲載してみます。

- 南北朝時代には藤原忠実の荘園である「栗真荘」があった。
- 「栗真荘」は白子から津市河芸地域を経て、現在の三重大学周辺までを領域とする旧奄芸郡のほぼ全域に相当する荘園である。津市には「栗真町屋町」として、白子にも小字栗真としてその名が残っている。
- 車庄または車間庄とも書く。現白子町の近鉄駅付近に栗真の字名があり、同町には式内久留真（くるま）神社もある。

また、「町屋村」についても調べてみると、

- 中世、栗真庄（現鈴鹿市）に属したといわれ、後に栗真村の名を生むことになる。文禄検地帳写によると、町屋・白塚・中山・小川、中瀬・高佐（現安芸郡河芸町）を一括して「安芸郡千王名」と表していることから、荘園制の頃、当地が千王という田堵クラスの農民（日本の平安時代に荘園・国衙領の田地経営をおこなった有力百姓層）の請作地であったと推定される。

どうやら「栗真」という名称は、南北朝時代の荘園の名「栗真荘」が基になったと推測されます。また、栗真町屋町の「千王神社」の名前の由来も見つけることができたようです。

【参考】①栗真小学校創立100周年記念「栗真郷土史妙」

②コトバンク「栗真荘」「町屋村」

③ウィキペディア（Wikipedia）「奄芸郡」「白子」